

鹿児島県 有のそのまま 初号～貳拾号

<金井徳兵衛 編纂・出版 明治十年三月五日御届 同年三月～五月 出版>

http://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/bunko10/bunko10_08061/





鹿兒島 有のそのま 初號

そもそも今般／鹿兒島下暴／挙の発りは本年
こんど かごしまけんかぼう どう おこし

一月三十一日夜を初め県下の弾薬／庫へ逆徒多人数不意に押入り
いちがつさんじゅういちやをはじめて たまぐすりくら ぎやくとたにんすうふい おしい

小銃弾薬あまた奪取二月二日／三日の夜には又も同処へ乱れ入り監
こづつたまぐすり ばいとり よる また どうしょ みだ

護の官吏を騒がし倉庫に残れる／物品をことごとく掠め取り
まもりのくわんをさわがしくら のこ しな かす

標旗を掲げ改め不日／郵便太平丸が鹿兒島／港へ帰航碇泊を見懸け
めいしほをたてかへかへるふとひゆうべんたいへいまる かごしま みなと かえりとり みか

乗組の官員を引とどめ／兵器をふるふて各 所を／徘徊するは容易ならぬ
のりぐみのかんをひきとどめ へいきをふるふて ところを あちこち ようい

形状のため高雄丸にて河村海軍大輔林内務少輔の
かたち たかお

両公を現状取 乱として鹿兒島へむかはれしに県官への使ひ
ふたり げんじょうとりみだし かごしま けんくわんへのつか

属官二員を拘留し銃器をそなへ小船を繰出して◇船に
ぞくくわんにんをくわうしじゆうきをそなへ こぶねをくりいだ もとふね

せま づつさき ひら せま もとふね ともつな と ちかく
せま づつさき ひら せま もとふね ともつな と ちかく

迫り筒先を開くへきふるまひに◇舟は 纜 を解き近傍の
うみべ いかり おろ おおまけんれい ことから ただ わるもの

海岸へ碇を投し大山県令へ事情を糺すに逆徒は
うみべ いかり おろ おおまけんれい ことから ただ わるもの

倉庫弾薬を暴挙してより竟を迸り当時帰県の
くらぐらたまぐすりをばうきしてより さいはし とうじけけん

倉庫弾薬を暴挙してより竟を迸り当時帰県の
くらぐらたまぐすりをばうきしてより さいはし とうじけけん

倉庫弾薬を暴挙してより竟を迸り当時帰県の
くらぐらたまぐすりをばうきしてより さいはし とうじけけん

倉庫弾薬を暴挙してより竟を迸り当時帰県の
くらぐらたまぐすりをばうきしてより さいはし とうじけけん

倉庫弾薬を暴挙してより竟を迸り当時帰県の
くらぐらたまぐすりをばうきしてより さいはし とうじけけん

倉庫弾薬を暴挙してより竟を迸り当時帰県の
くらぐらたまぐすりをばうきしてより さいはし とうじけけん

倉庫弾薬を暴挙してより竟を迸り当時帰県の
くらぐらたまぐすりをばうきしてより さいはし とうじけけん

倉庫弾薬を暴挙してより竟を迸り当時帰県の
くらぐらたまぐすりをばうきしてより さいはし とうじけけん

明治十年三月五日御届

同 三月 出版

大阪第三大区京区新町南通一丁目十一番地

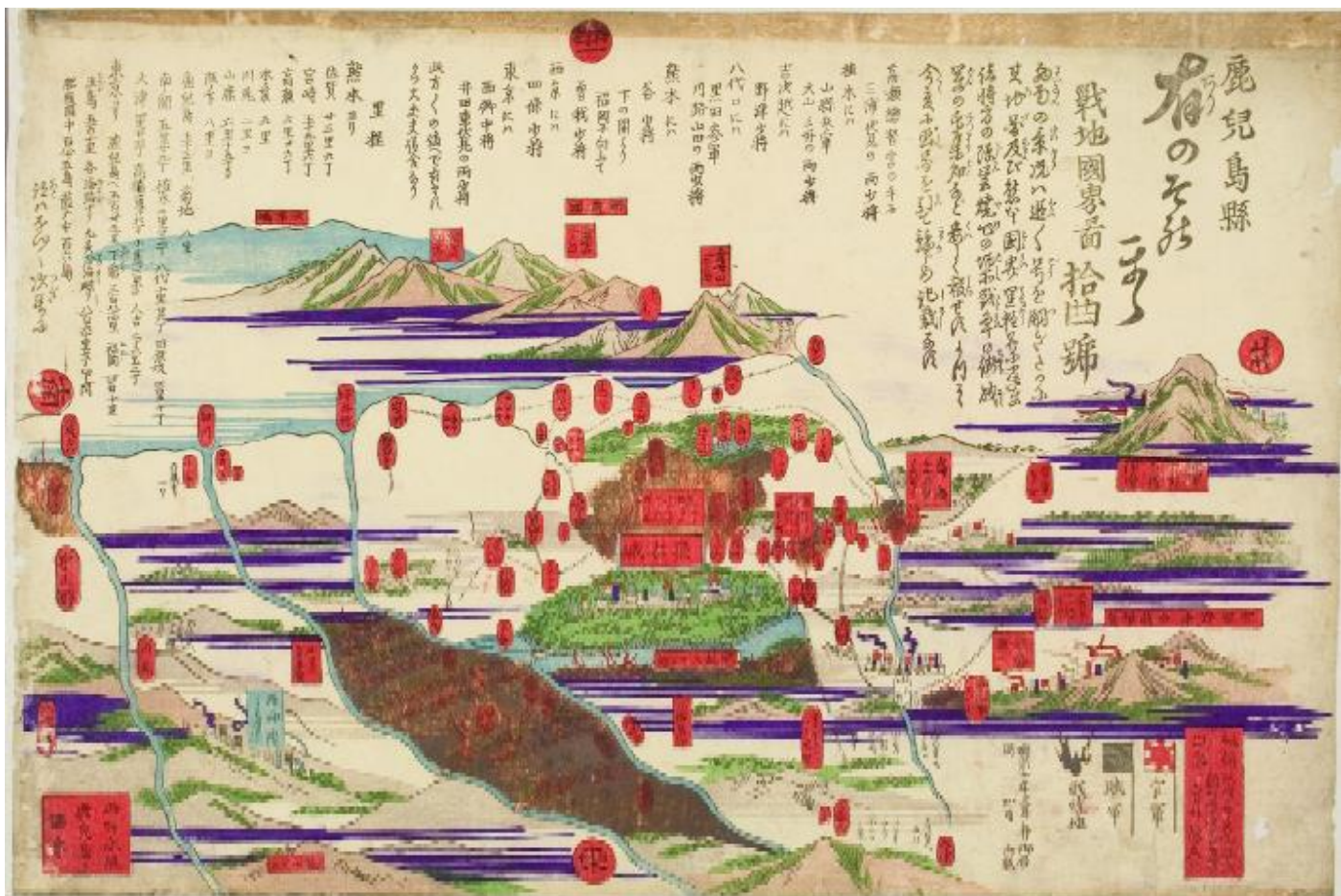
編纂・出版 金井 徳兵衛



鹿兒島縣 有のそのまゝ 拾一號

西南暴動の始りより／をるを各処の戦撃／を有の其俣しらせす／
 扱賊方が此さわぎ／を発すいふにつけ情ない譚が／有ますが此譚といふハ／
 いまだ戦のはじまらない／其頃鹿兒島へ帰県したる／警部方巡查方中原尚雄君
 を／初め其外四拾四人の面々たちを忽ち暴徒／多勢で擒としていうやうハ
 そのかたち 探索の事情有て帰国なしたるやイサ真直に白状／シロと思ひ懸
 其方達ハ探索の事情有て帰国なしたるやイサ真直に白状／シロと思ひ懸
 なき糾問に否といふ間も／あら無勢にも荒縄で縛り上げ鉄状を／もて打糞汁
 を灌ぎ息が絶ふれば呼び／戻し九死一生七転八倒サア探索の為の帰県で／
 あふと多勢が押し寄せ無勢にむかひ相違有まい此出／西へと無理無体拇印させ
 惨酷非道最う此上は首斬の／身を絞るか其面々ハ血の泪牢屋につながられ噂
 を聞／けば其書を名として西郷篠原桐野村田ハ国政を一変／し都へ勢を繰出す
 と係るを聞くに悔しき／ふるまひなるより空しく此ま面々が死にいたらば／
 此事誰有て急奏すべきやと四十四人が拳をにぎりしめ／牢屋をさつと開かせ
 てイザと引出すに扱こそ首の 礎に／あうなどあたわを見ればコハいかに西郷
 勢ハ繰出／し夫に引かへ官兵巡查方居ならびて演舌ニハ／鹿兒島県へ救使あつ
 て其手配ハととのひかと／聞に面々爰の如く九死をのがれ一生を得て海岸
 蒸船に／乗移され四十四人と真宗僧侶八人も／此夜東炎上着し青い空を
 流れ／たるハマアア御取事次号ハをるを

明治十年三月五日御届
 同 四月 出版
 定価 一錢二リン
 阪府第三大区京区新町
 南通一丁目十一番地
 編纂・出版 金井 徳兵衛



鹿兒島縣 有のそのま 拾四號
戦地國界図

さいなん けいきょう おいおいこう つ
西南の景況ハ追々号を嗣ぎたるに
ちずおよ こくかいみちのり
其地図及び熊本國界里程表に官軍
じんやけ ぼしよたたかい ちようぞく
諸將方の陣營焼屯の場所戦争の徴賊
ぐん あつまりとこ しら
軍の屯集処など委しく報せすよつて
ここ え ひい あらか しるし
今度に画図を引て予じめ記載なす

- 高瀬總督官の手に
 - 三浦 伏見の兩少將
 - 植木には
 - 山形參軍
 - 大山 三好の兩少將
 - 吉次越には
 - 野津少將
 - 八代口には
 - 黒田參軍
 - 川路 山田の兩少將
 - 熊本には
 - 谷少將
 - 下の関より
 - 福岡に向かふて
 - 曾我少將
 - 西京には
 - 四条少將
 - 東京には
 - 西郷中將
 - 井田 東伏見の兩少將
- 此方々の備えで有ります
から大丈夫請合なり

里程	熊本より	三十三里六丁
佐賀	五十九里六丁	
宮崎	六里廿六丁	
高瀬	五里	
木乘	二里ヨ	
川尻	六里十五丁ヨ	
山鹿	八里ヨ	
坂ノ下	五十三里	菊池 八里
鹿兒島	五里廿四丁	
南の関	十里廿六丁	
植木二里廿三丁	四丁十丁	
八代	四里廿四丁	
田原坂	一里六丁	
高橋	二里ヨ	
小嶋	二十六里二丁	
人吉	鹿兒島へ 五百廿五里	
東京より		
長しう		
下ノ関	三百八十四里	
福岡	四百十里	
肥前五島	五百十里	各海路ナリ
九州沿海廻り	八百六十里七丁四十間	
肥後國中	百八十五島	
薩摩中	百六島	
跡はをるを次号に		

明治十年三月五日御届
同 四月 出版
阪府第三大区京区新町
南通一丁目十一番地
編纂・出版 金井 徳兵衛



鹿児島県 有のそのまま 貳十號

西南評ハチヨイ／と話かわつて賊ハ／熊本を一
 二里張る／処に有／りて撓ハむ色なく桂衛門
 という者鹿児島へ歸りて／県庁を本營となして
 三千人の／兵を募り／て人吉通りを／さして繰込むんで
 戰場怪我人ハ鹿児島をくり／全快次第すぐに出帳をなすべしと
 有つて戰場よりの早うちハ

日に二度など六人懸りにてエワシー
 エワシーと駕を県庁へ飛びだしこむ扱ここに
 一際目立ちたる八千紫万紅陣

羽をりやら／寅の皮のふん
 どしドツコイ尻鞆の太刀隊長にハ

縮緬の旗さし物かすかに聞こゆる遠攻ハ
 熊本より賊へ加勢の邪風隊の貝鉦太鼓

多勢を率いて寄せたり寄せたりハテ頑固なるありさま
 なり○官軍にハ木山の賊壘を抜き宇土口の兵と

連結有て其後双方戦ひも鎮め賊は此辺を引はらい
 征討部署を謀らん見こみ官陣より斥候を出して賊

の事情を探偵なすといふ続いていかなる報知なることあれハ
 をのを次号に出す

明治十年三月五日御届
 同 五月 出版

阪府第三大区京区新町南通一丁目十一番地
 編纂・出版 金井 徳兵衛

桂衛門：桂久武(かつらひさたけ)幕末の薩摩藩家老および明治時代の政治家。との記述あるが、不詳。

千紫万紅(せんしばんこう)：種々さまざまの花の色。また、色とりどりの花が咲き乱れるさま。

尻鞆(しりぎや)：太刀の鞘を被う毛皮の袋

貝鉦(かいかね)：軍中で号令・合図に用いた法螺貝と鉦(かね)